

土  
40

土木学会誌第 40 巻および論文集 (昭和 30 年度) 総目次

112 3

会 長 講 演				号	頁
九州地方の古い石のアーチ橋	会長	工博	青 木 楠 男	6	253
<b>特 別 講 演</b>					
筑紫の古代文化について	九大名誉教授		長 沼 賢 海	10	495
<b>講 演</b>					
ソ連および中国の建設事業	正員	工博	矢 野 勝 正	8	371
<b>報 文</b>					
ECAFE 鉄道部会議に出席して	正員		中 路 誠 三	1	1
転波列の水理学的特性について	正員 准員		岩 垣 雄 一 岩 佐 義 朗	1	5
橋脚地盤の基礎係数値とその橋脚の振動性状に及ぼす影響について	正員		後 藤 尚 男	1	12
重力ダムコンクリート打設計画とその工期の妥当性に関する統計的考察	准員		伊 藤 和 幸	1	22
ダム放水管の設計法に関する一考察	正員 正員		村 荒 木 幸 正 村 荒 木 幸 正 夫	2	39
級数和を利用するモーメント分配法	正員		吉 村 虎 藏	2	45
小判型井筒隔壁の経済的な配置	正員		柴 田 直 光	2	52
壁厚が直線的变化をなす円筒形水槽の応力計算図表	正員	工博	酒 井 忠 明	2	56
直交異方性板理論による桁橋構造の自由振動に関する研究	正員		米 沢 博	2	59
日本学会会議と最近の動勢について	正員 正員 正員	工博	田 淵 寿 郎 中 菊 池 寿 一 矢 野 勝 正	3	85
三径間連続バリ橋におこる上揚力について	正員		深 谷 俊 明	3	89
土の切削抵抗について	正員 准員	工博	村 山 朔 郎 村 山 昭 治	3	94
自由表面を有する急勾配流れ	准員		井 田 至 春	3	101
安治川サイロにおけるスライディングフォームの実施について	正員 准員		橋 大 西 好 茂 大 西 好 茂 雄	4	125
杭打基礎の耐震性に関する基礎的研究	准員		谷 本 喜 一	4	132
トンネル工事に応用した薬液注入	正員 准員		住 友 博 彰 住 友 博 彰 文	4	136
ダムコンクリートに使用するフライアッシュについて	正員		水 越 達 雄	4	142
鉄筋コンクリートはりのひびわれ	正員		神 山 一	4	148
剛性載荷板荷重による砂層中の鉛直増加土圧の分布について	正員		市 原 松 平	4	153
砂の粒度がその単位容積重量及びモルタルの強度に及ぼす影響に関する研究	正員		荒 木 謙 一	4	159
軟弱地盤の特性に関する研究	准員		梶 原 光 久	4	164
桂沢ダム寒中コンクリート施工報告	正員 正員		佐 藤 忠 五 郎 北 村 幸 治	5	207
直交異方性板理論の鋼道路橋への適用に関する研究	正員 正員	工博	成 米 岡 沢 昌 夫	5	214
ハリ及びアーチの応力状態に及ぼす支持条件の影響について	准員		森 忠 次	5	219
地表面載荷重によつて岸壁に作用する横方向土圧の分布について	正員		市 原 松 平	5	225
開水路の垂直流速曲線における平均流速の位置の分布性について	正員		春日屋 伸 昌	5	230
構造物の安全率と破損の確率	准員		池 田 哲 夫	5	236
濃美大橋橋脚工事におけるケーソンの移動匡正について	准員 准員		本 青 博 亮 本 青 博 亮	6	259
水に飽和された土の振動圧力	正員 准員	工博	松 尾 春 資 大 原 雄 生	6	263

寒中コンクリートの電気養生における所要電力について……	正員 准員	工博	一松	木井	保夫	夫司	6	267
混合交通流における三車線道路の追い越し確率について……	正員		米	谷	栄	二	6	272
トランシットにおける 十字横線の調整法に対する実験的研究……	正員				森吉	満助	6	276
最初の湛水におけるアースダムの変形について……	正員 正員				宮高	下橋	6	280
リベット継手の溶接補強について……	正員 准員				桜井	井村	6	288
汚泥貯溜槽機構と設計に関する考察……	正員				川島	普	6	292
開水路水流の不安定限界について……	准員				岩佐	義朗	6	297
水道鉄管のモルタルライニングに関する研究……	正員				岩塚	良三	7	337
粘度の粘弾性について……	正員	工博			村山	朔郎	7	344
ランガー鋳術の応力とタワミの実測及びその解析……	正員 正員	工博			友橋	永本	7	350
特殊粘土混入によるコンクリートの品質改善について……	正員	理博			村田	山所	8	379
砂漣をとまなう掃流作用について……	准員				椿	東一郎	8	384
現地軌道の左右レールが受ける 非対称応力及び圧力に関する統計学的考察……	正員 正員 准員	工博			小後	林藤	8	392
直交異方性鋼床板の実験的研究……	正員 正員 正員	工博			成大	岡村	8	397
アーチダムの温度変化並びに 岩盤変形による応力の一計算法……	正員 准員	工博			田小	中坪	8	402
西条大橋の応力並びに振動測定について……	正員 准員				奥伊	村藤	8	408
上椎葉アーチダムの堤体内部の 諸実測に関する基礎的コンクリート試験……	正員				君島	博次	8	412
土の物理試験方法の規格に対する推計学的検討……	准員				浅川	美利	8	420
抵抗線ヒズミ計による長期測定について……	准員				安中	久二	8	426
浮流流砂が流れに及ぼす影響について……	准員				安椿	東一郎	9	449
管内における浮游流砂の流砂量について……	正員				小川	元	9	455
プレパクト工法による安治川口防潮堤復旧工事について……	正員 准員 准員				網福	本富	9	458
三径間連続バリ橋におこるタワミについて……	正員				深谷	俊明	9	464
コンクリートの変形に関する実験……	正員				吉本	彰	9	470
直交異方性板理論の斜桁橋構造への適用に関する研究……	正員				米沢	博	10	501
起振機による鋼橋の振動特性の研究……	正員				橋本	香一	10	507
壁厚が直線的变化をなす円筒形 水槽の温度応力解式と計算図表……	正員	工博			酒井	忠明	10	514
ビルディングの潜涵工事における応力測定……	正員 正員 准員	工博 工博			横尾	義貫	10	519
水道用大口径電弧溶接鋼管の残留応力測定実験……	正員				岩塚	良三	10	525
ダム放水管に付属する導水樋の機能について……	正員				荒木	正夫	10	532
開水路の垂流流速曲線に及ぼす諸因子間の相関性について……	正員				春日	屋伸	10	538
粘土の含水量変化にとまなう沖積層強度の推移について……	正員 准員				赤柴	井田	10	545
標準貫入試験結果による地這り機構の考察……	正員 正員 准員	工博			村山	朔郎	10	551
直交異方性板理論の連続桁橋 構造解析への適用に関する研究……	正員				米沢	博	11	593
表面振動による砂質土の締固めについて……	正員 准員 准員	工博			村谷	山本	11	598

横島港におけるゴム防眩材について……………	正員	春田 忠雄……………	11	603
組数の多い大腸菌群試験 における最確数の統計的分布の推定法……………	正員 准員	工博 岩井 重久……………	11	609
箱桁の断面変形について……………	准員	小松 定夫……………	11	615
平均値法の3次元への拡張とその流量測定への応用……………	正員	春日屋 伸昌……………	12	641
三径間連続バリ橋の文承沈下が 曲げモーメントに与える影響について……………	正員	深谷 俊明……………	12	647
繰返荷重下の構造物寿命の推算法について……………	正員	西村 昭……………	12	653
スラブ止め格子模型桁の実験的研究……………	正員 正員 正員	工博 成岡 昌夫……………	12	658
砂層による溶解性物質の除去について……………	正員 准員 准員	工博 大伊藤 井田 重久……………	12	664
		井田 桂頼		
<b>論 文 集</b>				
軌道の力学的性質に関する二、三の実験的研究……………	正員	工博 小林 勇……………	22	1
各種 AE 材の使用法に関する研究……………	正員	工博 国分 正胤……………	23	1
AN EFFICIENT MODIFICATION OF EULER-MACLAURIN'S FORMULA……………	正員	工博 谷本 勉之助……………	24	1
円筒状曲り格子の解法……………	正員	青木 康夫……………	24	6
巻立槽円形トンネル周辺の応力分布について……………	正員	小田 英一……………	24	12
波状磨耗レールが走行車両より受ける衝撃……………	正員	工博 小野 一良……………	24	28
洪水追跡用アナログ・コンピューターについて……………	正員 准員	工博 石原 藤次郎……………	24	44
		石原 安雄		
彎曲底面開水路を上を流れる底面に 垂直方向の速度成分を無視できない定常流れ……………	正員	荒木 正夫……………	24	58
橋脚井筒構造の動的耐震計算法について……………	正員	後藤 尚男……………	24	68
逆行列に関する二、三の考察……………	正員 正員	四野宮 哲郎……………	24	78
		大野 羊三		
合成箱桁橋の応力解析と設計計算法……………	正員 准員 准員	工博 小小西 一郎……………	25	1
		小大 松橋 一定昭		
打込み温度がマッサコンクリート の強度に及ぼす影響の研究……………	正員	工博 高野 俊介……………	26	1
支間 30 m のプレストレストコンクリート 鉄道橋（信楽線第一大戸川橋梁）の設計施工 及びこれに関連して行つた実験研究の報告……………	正員	工博 仁 杉 巖……………	27	1
滞流式雨水流出量算定方法の研究……………	正員	工博 板倉 誠……………	28	1
ダム内施設物が堤体の応力分布に及ぼす影響に関する研究……………	正員 准員	工博 丹羽 義次……………	29	1
		林 口 眺万		
合成桁の対傾構と床版の荷重分布作用について……………	正員 准員	田原 掛哲……………	29	9
漸変断面を有する三径間連続バリ橋の設計について……………	正員	深谷 俊明……………	29	18
分配法による鉄筋コンクリート不静定構造のクリープ解……………	正員	岡田 清……………	29	27
複鉄筋コンクリート部材において偏心軸方向力 を受ける場合の応力度並びに許容設計について……………	正員	加賀美 一二三……………	29	33
軌道の振動特性についての理論解……………	正員	佐藤 裕……………	29	39
土の振動伝播及び圧密について……………	正員	後藤 正司……………	29	47
I 型断面の曲りバリの応力度公式とその応用……………	正員	大野 諫……………	29	53
PC 鋼線の付加的な影響を考慮した 場合のプレストレスト門構ラーメンの研究……………	正員 准員	田原 保二……………	29	66
		国広 哲男		
特性曲線による出水解析について……………	准員	末石 富太郎……………	29	74
橋脚井筒の弾性動揺振動に及ぼすセン断効果……………	正員	後藤 尚男……………	29	88
堤体下部への滲透流に対する変分法の応用……………	正員	嶋 祐之……………	29	98
裏込粗石による岸壁背後に作用する土圧軽減について……………	正員	市原 松平……………	29	112

沖積粘土の工学的性質に関する研究	正員 准員	工博 石倉 井田 靖丸 下利 進男	30	1
混和材としてのフライアッシュに関する研究	正員	吉越盛次	31	1
<b>資料</b>				
1941年以降のトンネルに関する外国文献(1)	正員	伊吹山四郎	2	68
1941年以降のトンネルに関する外国文献(2)	正員	伊吹山四郎	3	107
1941年以降のトンネルに関する外国文献(3)	正員	伊吹山四郎	4	183
板の座屈について	正員	大宮克己	4	176
X線によるコンクリートの試験	正員	工博 成岡昌夫	6	307
矢板岸壁及びドルフィンと橋脚等の根入深さ算定公式	正員	工博 岡部三郎	6	309
ノモグラムによるPC鋼線緊張作業	正員	菅原操	7	357
交通停止により等速度交通流の受ける損失について	准員	佐々木綱	10	556
コンクリート重力ダムおよびアーチダムに対する基本的設計基準	正員	工博 岡本舜三	10	559
<b>技術ノート</b>				
注入コンクリート工法をトンネルの漏水どめに用いた施工例について	正員	清水修吉	2	65
<b>寄書</b>				
土木用語について	正員	工博 福田武雄	1	28
航空写真測量を依頼される方へ	正員	工博 丸安隆和	6	305
米国のWell-pointsの例について		編集 部	8	428
故太田円三氏記念碑の移設経過について	正員	平山復二郎	9	476
日光イロハ坂の交通安全度	正員	安東 功	12	669
<b>抄録</b>				
フランスにおける溶接水圧鉄管の製作			1	29
床版の荷重分配効果の近似計算法			1	30
棒から板への張力の伝達			1	32
朝顔型余水吐について			2	71
現在施工中のCherry Valley Dam			2	73
岩のボルト締め			2	75
サンドドレーン工法の応用例			3	112
最近の土質調査法			3	113
中央分離帯の植樹効果			3	114
San Marcos Bridge 設計と架設			3	115
少し曲つた棒の振動			4	189
永久凍土地帯の上水道計画			4	190
ベルギーの格納庫に使用された長径間のプレストレスされた鋼トラス			4	190
鉄筋コンクリート煙突の設計および施工標準示方書			4	191
プレストレス コンクリート構造物の振動実験			4	192
プレストレス コンクリート用のコンクリートについて			4	193
注入のためのグラウトの特性			4	194
一次葡萄が柱の座屈に及ぼす影響			4	196
クイビシェフ水力発電所建設の索道			4	196
角状切欠棒の引張りによる塑性変形			5	243
道路の防護柵について			5	244
コンクリート混和材			5	245
Passy-sur-Arve 発電所の水圧鉄管およびサイフォン橋			6	315
貯水池法面保護コンクリートの新施工法			6	316
サーシタンクを持つ水力発電所の運転を安定化させるための新方法			6	317
曲つた杭の支持力			6	318
サンドドレーン工法の実用上の問題点			6	320

三方法により求めたコンクリートのヤング係数の比較	6	321
吊橋に対する影響線解析	7	360
新型土圧計	7	362
三次元理想塑性体の特性曲面	7	363
曲線部における自動車の運動	8	430
トンネル内の落盤の音響探知法	8	431
鋼格子橋床のモーメントと撓度	8	432
土の間隙圧係数	8	434
プレストレスト コンクリート バリの均衡設計	8	436
二自由度系の非線型調和振動	8	437
動的横荷重を受けるハリの特別な場合の剛塑性問題としての解析	9	477
輸送施設の発達—ベルト・コンベヤー—	9	478
水路の曲りにおける速度分布と境界層	9	479
寒中コンクリート加熱プラント	10	565
放射能追跡子による砂濾過の研究	10	566
蓋然性を考慮した道路橋活荷重の決定法について	10	567
三角形状楔に対する近似応力函数	10	568
スイスにおけるトンネル用アルミ合金製型枠について	10	570
波の作用により構造物をこえる流れ	10	572
AE ペーストの気泡の形成および保持の機構	11	622
跳水現象解析の一つの考え方	11	623
圧力トンネル堅坑設計に関する最近の傾向	11	624
土砂流送に関する研究の現況	11	627
海岸の安定に対する防砂堤の影響	11	628
サンドドレーンの効果に対する批判	12	670
タワミ性路盤上の弾性版応力	12	671
ソ連の寒中コンクリートについて	12	672
プレストレスト コンクリート橋の荷重分布に関する実験	12	674
ヨーロッパ最長の吊橋	12	676

**講 座**

放射性同位元素と土工学(I)	正員	理博 四手井 綱彦	2	76
放射性同位元素と土工学(II)	正員	工博 岩井 重久	3	117
放射性同位元素と土工学(III)	正員	工博 岩井 重久	4	198
放射性同位元素と土工学(IV)	正員	工博 安芸 皎一	5	248
放射性同位元素と土工学(V)	正員	工博 安芸 皎一	6	323
建設の機械化について(I)	正員 正員 正員	工博 片平 信義 貴治	7	364
建設の機械化について(II)	正員 正員	伊丹 康夫	8	439
建設の機械化について(III)	正員	山本 朗 格	9	481
建設の機械化について(IV)	正員 正員 正員	神谷 朗 男健	10	574
建設の機械化について(V)	正員	工博 三加石 俊靖 重丸	11	630
建設の機械化について(VI)	正員 正員 正員	伊丹 康夫 次次 加藤 藤林 小長尾	12	677

# 土木学会刊行物

土木工学論文抄録 第3集	A 4判 230頁	実費 500円 会員特価250円	(送料 70円)
” 第4集	A 4判 173頁	” 450円 会員特価225円	( “ 70円)
” 第5集	A 4判 378頁	” 1200円 会員特価800円	( “ 80円)
土木学会論文集 第3号	B 5判 183頁	” 160円	( “ 30円)
” 第4号	B 5判 134頁	” 200円	( “ 30円)
” 第5号	B 5判 140頁	” 250円	( “ 30円)
” 第6号	B 5判 140頁	” 250円	( “ 30円)
” 第9号 (小西博士)	B 5判 9頁	” 20円	( “ 10円)
” 第10号 (岡本博士・久保慶三郎)	B 5判 18頁	” 40円	( “ 10円)
” 第14号	B 5判 54頁	” 120円	( “ 10円)
” 第15号 (結城博士)	B 5判 9頁(英文)	” 60円	( “ 10円)
” 第17号 (猪股俊司)	B 5判 90頁	” 250円	( “ 20円)
” 第18号	B 5判 66頁	” 120円	( “ 10円)
” 第21号 (星莖博士)	B 5判 27頁	” 130円	( “ 10円)
” 第22号 (小林博士)	B 5判 22頁	” 100円	( “ 10円)
” 第23号 (国分博士)	B 5判 18頁	” 40円	( “ 10円)
” 第24号	B 5判 82頁	” 150円	( “ 20円)
” 第25号 (小西博士・小松・大橋)	B 5判 28頁	” 130円	( “ 10円)
” 第26号 (高野博士)	B 5判 55頁	” 180円	( “ 10円)
” 第27号 (仁杉博士)	B 5判 56頁	” 160円	( “ 20円)
” 第28号 (板倉博士)	B 5判 23頁	” 80円	( “ 10円)
” 第29号	B 5判 120頁	” 150円	( “ 20円)
” 第31号 (吉越盛次)	B 5判 62頁	” 100円	( “ 20円)
コンクリート標準示方書 (昭和26年度)	B 6判 266頁	” 180円	( “ 30円)
コンクリート標準示方書解説	B 5判 167頁	” 300円 会員特価240円	( “ 30円)
最新土質工学	B 5判 138頁	” 150円	( “ 30円)
土木製図基準 (I)	B 5判 46頁	” 200円	( “ 30円)
昭和26年 夏季講習会パンフレット II 橋 梁	B 5判 92頁	” 200円 会員特価150円	(送料共)
昭和28年 夏季講習会パンフレット プレストレスト コンクリート と構造力学	B 5判 190頁	” 300円	( “ 30円)
昭和29年 夏季講習会パンフレット 新材料と新工法	B 5判 130頁	” 300円 会員特価250円	( “ 30円)
昭和30年 夏季講習会パンフレット 鋼橋設計示方書とプレスト レスト コンクリート指針	B 5判 152頁	” 300円 会員特価250円	( “ 30円)
学術用語集 土木工学編	B 6判 416頁	実費 315円	( “ 35円)
土木工事写真集	A 4判 264頁	” 1500円 会員特価1000円	( “ 100円)
プレストレスト コンクリート設計施工指針	B 6判 68頁	” 100円 会員特価 80円	( “ 20円)
鋼鉄道橋設計示方書案解説	B 5判 92頁	” 180円 会員特価150円	( “ 30円)
昭和30年度 土木学会名簿	A 5判 476頁	” 200円 会員特価100円	( “ 45円)
海岸工学講演会講演集	B 5判 188頁	実費 350円	( “ 30円)
土木工学ハンドブック	A 5判2206頁	クロス製	” 3200円 (送料 80円)
”	”	革製	” 3700円 ( “ 80円)
分冊	{ A 5判1170頁	クロス製上巻	” 1800円 ( “ 80円)
	{ “ 1100頁	” 下巻	” 1700円 ( “ 80円)

## 故 名譽員 工学博士 丹 羽 鋤 彦 君 略歴

丹羽鋤彦博士は明治元年（1868年）6月19日名古屋に生れ、明治22年7月帝国大学工科大学土木工学科を卒業後、ただちに内務省に入り最上川、淀川改修及び木曾川三川分流工事に従事され、同省直轄河川工事の規準を定められたが、同32年近代的商港として横浜港築造工事が着手せらるるに及んで、転じて大蔵省に入\*



\*り、同33年欧米各国に出張を命ぜられ、翌34年帰朝後近代港湾工学の先駆者としてのあらゆる辛苦をなめつつ心血を注いでこれを主管して大正2年竣工せしめられた。この間特筆すべきことはわが国で初めて圧気ケーソン工法を採用し一切外人の手を借りずに設計施工して成果を収めたことである。また明治38年神\*\*

\*\* 戸港全般の築港計画を定め、設計施工を監督し、大型鉄筋コンクリートブロックを使用した繫船壁を築造し、築港工事上一大転機をもたらし、建築工事では国会議事堂の建築等に委員または顧問として終始関係され幾多の功績を残された。この間大正4年工学博士の学位を授けられた。

大正8年退官されてからは日本水力株式会社常務取締役役に就任されたが、大正10年後藤新平市長の招きに応じて東京市道路局長に任ぜられ、兼ねて東京築港を指導せられ今日の実施案の基盤をつくられた。一方道路工事に関しては、当時不良であつたアスファルト舗装の研究を行いこれを完成し、特に関東大震災後の帝都復興に全力を注ぎ、全市灰燼の整理、橋梁及び道路の応急設備を実施し、交通の安全確保に努められた。

退官後三協土木建築事務所を創立して日満倉庫会社川崎埠頭等を設計され、その他顧問あるいは調査委員として計画を指導し実施せしめたものに花蓮港修築、日本鋼管会社川崎新埠頭、新潟港修築工事等のほかに、港湾協会常議員、同理事及び副会長を歴任され、その間わが国中小港湾で博士の関与されたものは枚挙にいとまないほどである。

土木学会にあつては大正3年創立の際発起人の一人として、ことのほか活躍され、その後常議員及び各種委員会の委員として尽力され、大正12年副会長として学会の運営に力を注がれた。このように博士の功績は特に顕著であつたので昭和18年2月通常総会において満場一致名誉員に推挙せられたのである。

また博士は子弟の教育に非常な熱意を持たれ、大正10年6月攻玉社に現在の短期大学の前身である高等工学校の創設と同時に初代校長に就任され、爾来昭和20年3月まで実に24年間の長きにわたり慈父のごとき愛情をもつて子弟の薫育にあたられ崇敬の的となられた。

博士はわが国港湾技術の黎明期にあつて近代的発展の基礎を築かれ、交通技術に格段の功績を残されたので、昭和28年第1回交通文化賞を受けられ、近年悠々自適され、学会の会合には万障を差繰り出席され、その温容をもつて後輩を指導されていたが、昨春脳ケッセンで臥床されてから約10箇月、昭和30年1月18日渋谷区大山の白邸において88歳の輝やかな生涯を終られた。

博士の計が天聴に達するや特旨をもつて勲2等旭日重光章を授けられた。

博士は観世流謡曲を愛好されまた和歌を楽しまれた。御家族として嗣子良彦、満津子（鮫島茂博士令夫人）の両氏ともに立派に社会に活躍せられておらるる事は御満足であつたことと思われる。

## 故 名 譽 員 前 川 貫 一 君 略 歴

前川貫一君は明治6年(1873年)6月29日滋賀県に生れ、明治30年7月東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業後ただちに内務省土木監督署に入り、同38年職制改正とともに新潟土木出張所、東京土木出張所に勤務して、主に河川及び港湾工事に従事された。同44年欧米各国へ出張を命ぜられ、帰朝後東京土\*



\*\*木出張所工務部長兼庶務部長として活躍された。

大正12年名古屋土木出張所長、引続いて昭和3年6月内務省土木局第一技術課長を歴任、その間終始君の温容をもつて後輩を指導し、全国の建設技術行政に挺身せられた。

昭和9年5月退官されてからは大同電力、昭和電力、矢作電力、愛岐水力等各社の技術顧問を嘱託されたが、各社が日本発送電株式会社に合併してからこれを辞し、昭和16年東京市水力発電事業委員を依嘱されたが翌17年5月から一切の公職を辞し、閑雲野鶴を友として稲村の寓居に悠々自適されていた。

土木学会にあつては常議員及び各種委員会の委員、また昭和6年から2箇年間副会長として学会の運営に尽力せられ、わが国土木工学並びに土木技術の進歩発達に関し、君の功績特に顕著であつたのでわが土木学会は昭和25年5月通常総会において満場一致名誉員に推挙したのである。

高齢疾を得てついに起たず、昭和30年1月13日熱海市稲村の自邸において安らかに永眠されたことはまことに哀悼のきわみにたえない次第である。享年80有3。

君は終生旅行を唯一の楽しみとせられ、御家族としては、令夫人に国男、信夫、春雄の三男がおられるが、いずれも立派に一家をなし、社会に活躍しておられることは同君としても御満足であつたことと思われる。

\*木出張所松戸梅郷、幸松松戸及び野田土地収用事務所、江戸川改修事務所、野田兼松戸機械工場及び中川改修事務所等の各主任を歴任せられ、大正8年日本水力株式会社に奉職のため休職となり、同社土木部建設課長を命ぜられたが、経済界不況のため会社解散と同時に同10年復職を命ぜられてから東京第一第二土\*\*